

木村武山 彩色杉戸絵展

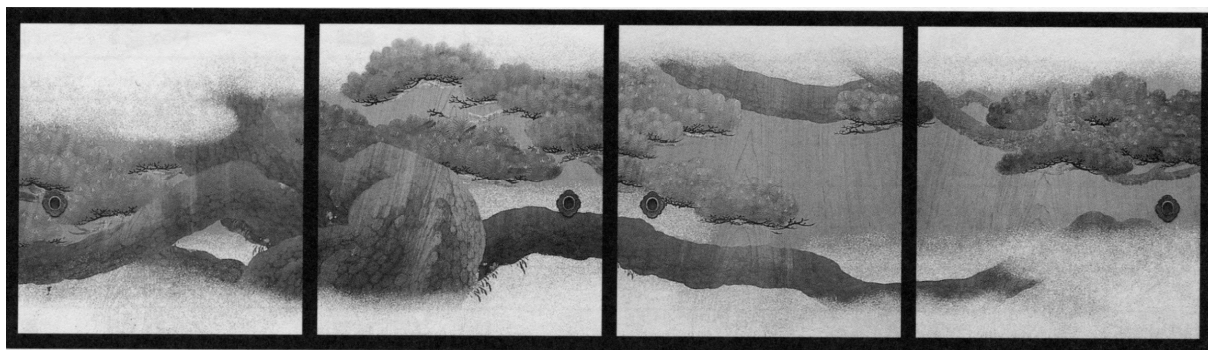
会期：令和2年2月27日(木)～4月26日(日)

彩色杉戸23枚(うち17枚は両面)全40面

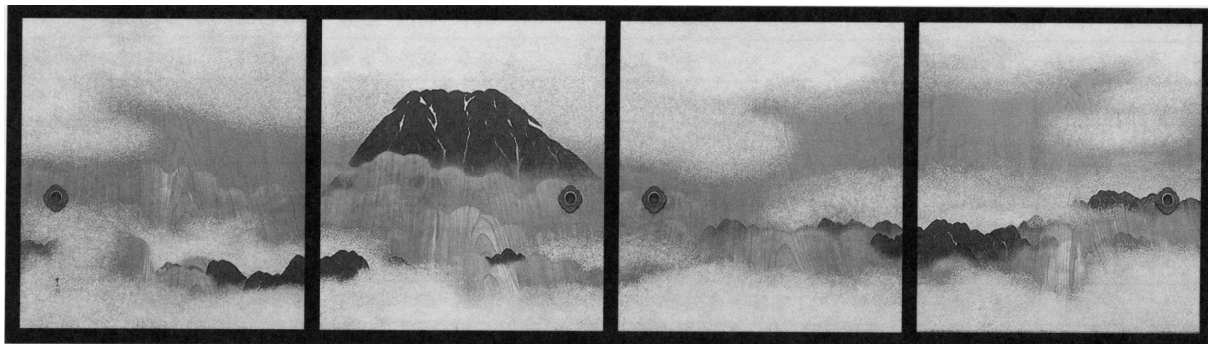
「松図」8面、「富岳図」4面、「紅梅図」2面、「桐図」1面、「日の出図」2面、「四季草花図」18面(9件)、「柏に笹」4面(2件)、「笹に流水」1面

現・行方市出身で船舶事業で財を成し、政治家としても活躍した内田信也(1880～1971)が大正8年頃に兵庫県神戸市須磨に建てた邸宅は、その豪華絢爛さから須磨御殿とも呼ばれました。今回展示する彩色杉戸絵は、横山大観らと共に日本美術院の中心として活躍した笠間出身の画家、木村武山(1876～1942)が内田邸のために描き、実際に邸内で使用されていたものです。

平成7年、阪神淡路大震災でこの邸宅は被害を受け、解体されました。しかし、幸いにも損傷を免れた杉戸絵は、平成13年、所有者のご意向により武山の郷里である茨城の当館に寄託されました。こうして再び茨城で公開できるのも、幸運なめぐりあわせといえるでしょう。



松図 (8面の内)



富岳図



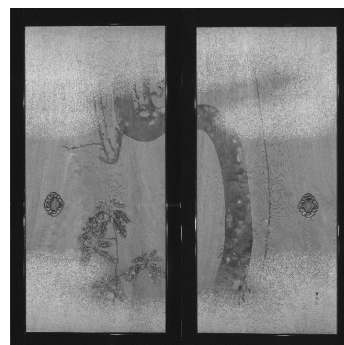
四季草花図 (18面の内)



四季草花図 (18面の内)



日の出図



紅梅図

※都合により、出品作品が一部変更される場合があります。